

教会委員会 9 日 (日)
 ゆるしの秘跡 16, 30 日 (日)
 信徒の会 例会 16 日 (日)
 子どもミサ 23 日 (日)



中和田カトリック教会
 広報委員会発行

泉区中田北 1 丁目 9-1
 Tel. (045) 803-6141

<http://www.paw.hi-ho.ne.jp/nakawadacatholic/>

2014 年 3 月 2 日

Christ carrying the cross (Niccolò Frangipane, 1570's)

悪人に手向かってはならない

主任司祭 小林 陽一

イエス様は、ある時、弟子たちに言われました。「あなた方も聞いているとおりに『目には目を、歯には歯を』と命じられている。しかし、私は言うておく。悪人に手向かってはならない。誰かがあなたの右の頬を打ったなら、左の頬をも向けなさい」。

ここで言われた「目には目を」の教えは、レビ記 24 章 20 節に次のように書いてあります。すなわち、「骨折には骨折を、目には目を、歯には歯を。人に傷を負わせたように、その人も負わなければならない」、また 21 節には「動物を打ち殺した者は、それを賠償しなければならない」と。これは、同害復讐法とよばれ、同じ害をもって対応する法律でありました。被害に応じた罰が与えられ、被害に応じた弁償が支払われなければなりません。人種的偏見で刑罰が左右されてはならないし、公正な裁判による刑罰の範囲が限定されなければなりません。

イエス様は「しかし」と言われた後、「私は言うておく。悪人に手向かってはならない。誰かがあなたの右の頬を打つなら、左の頬をも向けなさい」と教えられました。その教えには、「全ての人と出来る限り平和に暮らさなさい」という意味が込められておりました。誰に対しても復讐しないこと。そして、誰に対しても悪をもって悪を返さず、力の及ぶ限り全ての人と平和に暮らし、よいことを心がけること。その考え方の背景には、自分で復讐せず、復讐は神に任せるという信仰がありました。

右の頬が相手の手のひらで打たれたのであるなら、今度はその手のひらで左の頬を打たれることになります。その時左の頬を出すことの意味は、そのように打撃を受け止めて、これを相手に返さないことによって、本来報復したいと思う憎悪と敵対を片道で受け止める心を持つことであります。イエス様は個人的暴力や攻撃について、復讐するなどっておられます。

しかし、法的社会正義、公的社会正義がかかっている事に抗議し、立証することを禁じてはいません。イエス様は、十字架につけられる前、大祭司に尋問された時、イエス様の顔を平手で打った下役の一人に抗議しておられました。(ヨハネ福音書 18 章 23 節)

悪人に手向かってはならない・・・とイエス様が教えられたのは、悪人が必ず回心すると信じておられるからだと思います。

「あなた方を迫害する者の上に祝福を願いなさい」(ロマ書 12 章 14 節)。「敵が飢えているなら食べさせなさい。敵が渴いているなら飲ませなさい。そうすれば、敵の頭にあなたは燃える炭火を積むことになる(敵が悔いるようになるの意味)」(ロマ書 12 章 20 節)。

典礼こよみ (三月)

日	曜	典 礼	ミ サ	備 考
1	土		主日ミサ (18 時)	掃除
2	日	年間第 8 主日	主日ミサ (9 時)	★★ 毎金曜日 (7,14,21,28 日) の 9:30 より、 十字架の道行きの祈りが行なわれます。
5	水	灰の水曜日	祭日ミサ (19 時)	
7	金		初金ミサ (10 時)	掃除
8	土		主日ミサ (18 時)	
9	日	四旬節第 1 主日	主日ミサ (9 時)	
15	土			掃除
16	日	四旬節第 2 主日	主日ミサ (9 時)	ゆるしの秘跡 (メイン)
19	水	聖ヨセフ	祭日ミサ (10 時)	
22	土			掃除
23	日	四旬節第 3 主日	主日ミサ (9 時)	子どもとともに捧げるミサ
29	土			掃除
30	日	四旬節第 4 主日	主日ミサ (9 時)	ゆるしの秘跡 (サブ)



2007年より中和田カトリック教会の主任司祭を務められ、今年4月20日（復活祭）を以って三浦海岸教会に赴任されることになった小林陽一神父様（75才）に洗礼を受けられたきっかけ、司祭になられたいきさつを伺いました。

▲洗礼を受けられたきっかけは何でしたか？

一小学校6年間、母に連れられて日本キリスト教団の日曜学校、礼拝に通っていました。その頃分かっていたことはキリスト教とは日曜日に礼拝するところということでした。沼津工業高校機械科を卒業後、東芝富士工場に入社しましたが、就職して間もなく黄疽にかかり約半年間休職したことがありました。その間、命の大切さや人間の脆さ、弱さなどに気づかされると共に母が教会の礼拝を欠かさずに通い続けている姿を通して自分も神に寄りすがって生きるしか道はないのだという思いに至りました。会社に復帰してからは仕事帰りに富士カトリック教会にカテキズムを勉強するため2年間通い受洗しました。

▲一旦就職され、またお母様は熱心なプロテスタントであったにも関わらず、なぜカトリックの司祭になろうと決心されたのでしょうか？

一高校生の時、小説の創作に興味があって文芸部に所属していましたが、その頃出会った倉田百三の著書「愛と認識の出発」の中に述べられている『キリストの愛』について強く感銘を受けました。そして著者が述べる真のキリストの愛を示しているのは忍耐強く生涯独身を通すカトリック司祭なのではないかと考えました。本格的に司祭になりたいと思ったのは受洗してから半年ぐらい経ってからのことでした。当時富士カトリック教会もフランス人司祭でしたし、小教区は全て外国の司祭でした。子どもの頃訪れた日本キリスト教団の牧師が日本人だったことから、カトリックも今後は日本人の司祭が必要ではないかと自分なりに考え志願しました。

▲一旦社会人になってから司祭になる勉強は大変ではありませんでしたか？

一受洗後3年目に上智大学・スコラ哲学科の受験を許可されましたが不合格、もう司祭にはなれないとがっかりしていたところ大阪にある英知大学で神学、語学等を学ぶよう勧められ、1年間勉強した後に再度受験して何とか上智大学に入学することができました。ラテン語2年、スコラ哲学を2年学び終えて、ようやく同大学の神学科で学ぶことができました。長い道のりでしたが、それまでとは違う分野を学ぶことの新鮮さに喜びを感じ、ただ一筋司祭になることを目標に夢中になって勉強しました。

▲司祭になって印象的だった出来事をお話してください。

一1982年8月からフィリピンの東アジア司牧研修所マニラに派遣されました。現地の司祭、信者さんたちの寛容さ、温かさに触れ、自分が少しずつ変わっていくのを感じました。経済的には貧しいのですが、細かいことを気にしない大らかさ、たくましさ、何よりも自分のことよりもまず他の人のことを考える信者さんたちの気質に感心させられました。その後司祭を務める上で大切なことを学んだ貴重な7か月間でした。

▲中和田教会の信徒の方々にメッセージをお願いします。

一50～70代の方々にお願いします。現在仕事などで教会に来られない20代～30代の方々に気持ちよく接して頂けることを願っています。バザーなど、手伝いに来てくれた時にはねぎらいの声をかけてください。個人で、グループで、あるいは共同祈願などで祈っていると祈りは必ず通じると信じています。

祈りのワークショップ

第5地区共同宣教司牧委員会の「祈る力を育てる」部門が行う今年の「祈りのワークショップ」が鍛冶ヶ谷教会で行われ、参加してきました。

今回のテーマは“イエスとの出会い”。聖書を通していつも呼びかけておられるイエス様の言葉に、私たちは気づいているのでしょうか・・・という問いかけです。

祈り方にはいろいろな仕方があると思いますが、今回体験させていただいたのは、聖書を用いた祈り方で、何人かのグループで聖書的一部分（今回は次の主日の福音が使われました）を順番に最初は普通の速さで、次いでもう一回今度はゆっくり読みます。その後各自でもう一回黙読しながら心に響いた言葉を選びます。これは、聖書の内容や解釈とは無関係に、その時点で心に響いた短い単語とか語句そのものを選びます。その短い単語や語句の中にこそ、いま私に呼びかけておられるイエス様の心があるのですということで、最後にみんなで、なぜその言葉が心に響いたのかを分かち合います。

このように心を澄まして聴き、じっくり味わった言葉の意味は、一人ひとり本当に違うことに不思議な思いをいたしました。まさにイエス様は、その時そのみ言葉のなかに現存しておられて、一人ひとりの喜び、悩み、苦しみ、悲しみ、感謝などに向き合っていて下さったのだということを実感できました。

祈る私の心に応えてくださる主の言葉ですから、一人でもできる方法だと思いますが、分かち合うことで、さらにイエス様の深い慈しみや恵みを豊かに感じ取ることができるような気がいたします。（岩崎 好愛）



♪ 第23回聖歌の集いのご案内 ♪

今年も聖歌の集いの練習が始まりました。聖歌の集いとは神への感謝と横浜地区カトリック信者相互の繋がりを強め、お互いの教会を知り合うという目的で聖歌隊の方や、聖歌が好きな方が集まり毎年5月の下旬にミサと親睦会を行います。今まで伝統的なグレゴリア聖歌、戴冠ミサ（モーツァルト）等を歌ってきましたが、今年はチェチリアミサ（ターナー作曲）をミサ曲として歌います。事前に巡礼を兼ねて、各教会で練習を行いますのでご心配はいりません。今年の練習は残すところ3回となってしまいましたが、当日だけでも参加いただけます。と一緒に聖歌の心に触れながらミサを捧げましょう。

— 記 —



- ・日時：2014年5月25日（日）14:00～17:00
- ・場所：カトリック二俣川教会
- ・練習：各カトリック教会聖堂にて
 - 3月2日（日）保土ヶ谷教会 14:30～17:00
 - 4月27日（日）山手教会（仮） 14:30～17:00
 - 5月11日（日）二俣川教会 14:30～17:00
- 参加申し込み 聖歌の集い連絡担当 大宮絢子まで

宣教グループより

堅信とは

私たちは洗礼によって霊的に生まれ、堅信によって恩恵は増し信仰は強められていきます。そしてご聖体によって養われるのです。



堅信の堅は堅めるの意で、堅信とは信仰を堅め確かなものとし、力強くすることです。神から与えられた信仰の恵みは種のように年とともに成長し、大きく、深く、強いものとなっていくのではないのでしょうか。

今年度6名の小中学生の子供たちが受堅します。受堅する子供たちはこれから多くのことを体験していくでしょう。子供たちが日々神の子であるキリスト者として生活を営むよう心がけ、教会内で信仰の恵みをはぐくみ育てることにつとめ、聖霊による励ましと助けによって、自分に与えられた使命を果たしていけるように中和田教会の皆様に見守っていただければと思っています。

7月6日の堅信式にむかって子供たちも現在頑張って勉強しています。励ましの言葉をかけていただければきっと、子供たちの励みになると思いますのでよろしくお願い致します。
(井上昭男)

第33回 春期典礼研修会に参加して

2月11日（火）10時より藤沢教会にて行われた今年の典礼研修会のテーマは「主のみことば」と題し、＜聖書と典礼＞の編集長・石井祥裕氏と司教協議会典礼委員・宮越利光氏による講演でした。会場は全て満席となり典礼についての関心の高さが伺えました。当教会からは12人の参加がありました。

まず石井氏による講義は＜聖書と典礼＞の概略紹介と入信の秘跡にまつわる古代教会の歴史の変遷など興味深い内容に続いて、ヨハネ福音書1章「初めに言があった。・・・」を引用して本題が提示されました。聖書の「みことば」は神の言でありキリストであり『みことばを私たちに分らせてくださるのはそこにキリストがおられるからであり、神のみことばであるキリストは仲介者として神と私たちを繋いでくださっているのだ』と強調されました。

「みことば」を聴くため会衆はミサの前に聖書と典礼を読んでその日のテーマを予めつかみ、朗読者や司祭が朗読する時はただひたすら集中して聴き黙想し、また説教を聴き味わうことは聴く側の大切な奉仕であるとも表現されました。言い換えれば「みことば」を聴き味わい黙想することによって、キリストが語りかけておられることに私たちが気づくことができるということだと思えます。

午後から宮越氏の講義「みことばを歌う」では、詩編とは神のことばを聴いた神の民が応答して祈り、神と対話するものであり、それは私たちの祈りへの導きとなり第一朗読を黙想する助けにもなるのだそうです。アレルヤ唱はその日の集いで語られるキリストを迎える喜びを表し、入祭、奉納、拝領での行列は行動的参加の一致を表しているとのことでした。これらミサの流れ一つ一つに意味が込められ全てに繋がりをあることを分かり易く示して頂き、改めて神に心を向けミサを捧げることの大切さと喜びを心に刻んだ一日でした。
(今井 暁子)



ビデオ鑑賞と天体観望会のご案内

ガリレオ・ガリレイに関するビデオの鑑賞会及びガリレオが発見した4つの衛星を持つ木星と月面の観望会を下記の通り実施致しますのでご参加ください。お待ちしております。お問い合わせの方のお誘いも大歓迎です。

— 記 —

日時：3月7日（金）17時30分～19時30分

場所：中和田カトリック教会（立場、夜間救急センターの隣）

○新集会室 17時30分～18時20分 ビデオ鑑賞

○教会の裏の空き地（畑） 18時30分～19時30分 天体観望

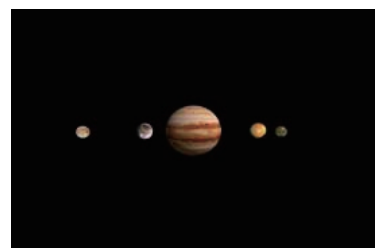
講師 神奈川大学付属中・高等学校 久保美一先生

*夜ですので小・中学生は保護者同伴でお願いします。

*懐中電灯をお持ちください。

*寒いので暖かくしてお出かけください。

(信徒の会 森脇美武)



信徒の会：：例会報告

2月16日にミニ講演会を開催しました。教会には種々の知見や特技、経験をお持ちの方がいらつしやるので、お得意の分野のお話を伺うという趣旨で今回はその第一回目、管理栄養士の資格をお持ちの小山利江さんに「バランスの良い食事とロコモ予防ー健康寿命を延ばしましょうー」という題で、ご講演頂きました。大雪の降った後で、教会に来られない方も多いと予想されましたが、お話を聴くのを楽しみに来ましたとおっしゃる方も何人もいらつしやり、二十数人の方々のご出席をいただきました。小山さんはリボンの会というお仲間の会で活躍されていて、さすがに軽妙な語り口で大変面白いお話をされ、思わず引き込まれあつたという間の一時間半でした。

主食、副菜、主菜、もう一品(副菜が主菜の前に来ているところが考え方として大事とのこと)のバランスの取れた組み合わせがいかに大事かがよく分かりました。食事の回数、減塩、野菜(一日350グラム、認知症対策にもなる)、水分補給、アルコール等々多岐にわたるお話しで、日頃料理に縁遠い私でも大変面白く拝聴いたしました。「巷にサブリの宣伝など健康情報氾濫しているが、大事なことはバランスの取れた3回の食事で栄養を取ること取りすぎないことを基本に、時にはそこからはずれても戻していくってください。」と締めくくられました。小山様、熱心にご聴講くださった皆様、どうも有り難うございました。

(岩淵英介)



委員会だより

(文中敬称略)

△2月9日(日) 10名出席▽

■神父様のお話

・人事異動：引越日程、日野神父様の希望 4/21(月)〜26(金)
小林神父様の引越業者の選定や日取り(日野神父様との兼ね合いを考え)は総務で調整する。(岩淵)
・3月23日(日) 日野神父様が中和田教会の主日ミサに来られることになったので共同司式をして頂くことにした。神父様との打ち合わせをしてください。→詳細検討

■報告事項

2月スケジュール確認
ゆるしの秘跡(サブ) 3月23日(日)は30日(日)に変更

■各グループからの報告

●典礼(大宮(智))

・十字架の道行：15留の祈りの中和田教会版を、聖書を参考に考案し追加することとした。承認されれば印刷したものを従来の冊子に貼って使用したい。→確認の上承認
●財務(甲斐)

・愛の献金：児童福祉の日(3万円)

●宣教(井上)

・リーダー会
サマーキャンプ8月8日(金)〜10日(日)
今年も参加費を補助しますので大いに参加してください。(上野)
リーダー会の活動費を頂けるとありがたい(井上)
・堅信式の勉強会は子供たちの意向を受けて第2・第3土曜日午前10

時よりとした。

●要理(大宮(ひ))

・初聖体：11月23日(日) 王たるキリストの主日

●建物を考える会・営繕(福島)

・引越に伴う改装(カーテン、ガス湯沸かし器、そうじ等)
外気(太陽)に当てられる人目につかない物干し場があると良いかと思う(小林神父)
・ダスキンを解約後、そうじの仕方等を検討する。
●福祉(楠田)

・去年まで送っていた団体への寄付は続けてほしい。
・四旬節の愛の献金は指定献金以外にも献金箱を設置し募金と呼びかける

●総務、信徒の会(岩淵)

・地区割り：3地区に組み直す方向で総務で案をまとめ有志の方と検討、意見交換をする
委員会決定後は典礼の取り組みだけでなく、委員長選出、固定化された委員の改選にも活用していく。

・今後教会の建物をどう維持していくのか、営繕、財務、総務と有志の方で検討するグループを立ち上げる必要があると考えている。

●広報(今井)

・原稿依頼(締切2月20日)

●行事(岩淵・代理報告)

・バザー：現状のメンバーで例年のバザーを行事委員だけで担当することは難しい。有志の方で

バザーを担当してほしい。

2月23日(日) 新旧行事委員、委員会のメンバー、有志の方(自由参加)に集まって頂き、今年のバザーの有無、やるとすればどのように運営するか、具体案を持つて検討する。(上野)

■討議報告事項(上野)

・災害対策：臨時信徒大会で短期受け入れでは十分との意見もあり、水・食糧を50人×5日間(内10人は救援できる信徒)で見積もりました。対象は主に地域の独居老人や小さな子供がいる家庭(上野)地域にも避難所があるのに中和田教会へわざわざ避難する人はいるのか、
必要な費用が100万超になっているがそれだけの価値があるのか疑問だ。(岩淵)

・町内会で独居老人、その他の情報は把握しており、市の救援物資も受けられる。
また救援に当たるため信徒が教会に駆けつけるのは難しい。(楠田)

・臨時信徒大会で出された意見を踏まえての議論をする必要がある。

(大宮智)

・安全な避難経路を確保することも大切だ。(甲斐)

・各々意見を箇条書きにして提出し次回委員会にて更に検討する(上野)

以上

次回委員会

3月9日(日)

